

アートと生物多様性

展示会「アマゾンの洞窟壁画への賛辞」

2019年2月7日から4月30日まで開催中

場所：パリ・ディドロ大学内の図書館 グランムラン

コロンビア大学の哲学者 および民族誌学者であるフェルナンド・ウルピナ・ランヘルは1978年から1998年にかけてコロンビアのチリビケット地域において写真撮影を続けました。祖先たちの残した洞窟壁画をとらえた写真を通してその地域の住民の信仰や先祖たちの知識を垣間見ることができます。

展示会「アートと生物多様性：アマゾンの洞窟壁画への賛辞」では、自然や生物多様性への尊敬の念が生活に根付いているアマゾンの住民コミュニティの世界観に触れることができます。現代アートの中にも生物多様性を取り入れるヒントを与えてくれます。

「アートと生物多様性：アマゾンの洞窟壁画への賛辞」はパリ・ディドロ大学文化マネジメントと三ヶ国語コミュニケーション専攻(MCCT)の修士課程2年の学生と修士課程の共同責任者フランソワーズ・リシュ・ロッシ氏との協力で実現しました。そして、文化の調和協会の協会長であるベアトリス・ヘレナ・オブレゴン氏、パリ・ディドロ大学(パリ第7大学)のグランムラン図書館の文化および科学の推進の責任者であるクレール・ティルフォー氏、両氏にプロジェクトのイニシアティブを取って頂きました。

展示会を実現するために写真をご提供頂き、このプロジェクトの準備と実現にご協力とご尽力頂いたベアトリス・ヘレナ・オブレゴン氏のご厚意に MCCT 修士課程2年生一同、心より御礼申し上げます。また、このプロジェクトの配置にご指導頂きましたクレール・ティルフォー氏にも心より御礼申し上げます。

委員会

フランソワーズ・リシュ・ロッシ：パリ・ディドロ大学(パリ第7大学) スペイン文明 教授、文化マネジメントと三ヶ国語コミュニケーション専攻 (MCCT) の共同責任者

ベアトリス・ヘレナ・オブレゴン：文化の調和協会の協会長

展示会実行委員の MCCT スペイン語専攻の学生：アナイス・バダウィ、ロール・カルパンティエ、ソフィ・クタン、キャロリン・ゴメス、アナイス・ギヨ、レア・ペレ、リザ・トマ、イネス・マルコス、キャンディス・チュイトガ

製作

クリストフ・ペラル氏の監督のもと

パリ・ディドロ大学 文献共通サービスの文化および科学の推進委員：

クレール・ティルフォー、カリヌ・ユラン、ローラ・マレシャル、ヴェロニック・グロリウー

舞台美術

デザイン

アルノード・フュランワース：パリ・ディドロ大学 コミュニケーション科

フェルナンド・ユルピナ・ランヘル氏に心より謝意を申し上げます。

Traduction : Ai Matsui et Christelle Hazard

